登山月報

アジア山岳連盟創立20周年記念総会・祝賀会・山岳平和祭を開催 …… 1
第53回全日本登山体育大会・徳島大会 …… 3
平成26年度中高年安全登山指導者講習会（西部地区）報告 …… 5
第73回 Mountain World …… 7
北から南から ブロック便り …… 8
2014 IFSC ワールドユース報告 …… 9
福島県山岳連盟創立60周年記念祝賀会 …… 11
神奈川県山岳連盟創立60周年記念式典・祝賀会 …… 11
平成26年度理事会（第3回）報告 …… 11
平成26年度全国参与会報告 …… 12
ＪＭＡ、寄贈図書、編集後記 …… 13

アジア山岳連盟創立20周年記念総会・祝賀会・山岳平和祭を開催

11月22日から26日にかけてアジア山岳連盟創立20周年を記念した総会・祝賀会・山岳平和祭などが広島市で開催された。複数の一連の事業を行ったので、個々について概要のみの報告とする。なお、本事業開催に当たっては広島県山岳連盟の方々には大変お世話になりました。この紙面を借りて感謝申し上げます。感想や、今後の展開については別の機会に掲載したい。

1. 開催までの準備期間

国内の参加者は各団体の自然保護委員会の方々が中心であった。（公社）日本山岳協会、（公社）日本山岳会、日本勤労者山岳連盟、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト（ＨＡＴ－Ｊ）、山のＥＣＨＯ、（公社）東京都山岳連盟に所属する方々である。初期段階は各団体多少の齟齬はあったが、最終的には大きな混乱はなかった。

海外については直前になり、参加の追加があり、しかもＶＩＳＡ取得に関係があったため、その国の日本大使館まで電話して対応するなどギリギリまでもつれた。海外参加者はＵＡＡＡ（アジア山岳連盟）加盟国が中心であるが、来賓としてＵＩＡＡ（国際山岳連盟）のフリッツ・フレイラント会長夫妻、これからＵＡＡＡに入ることを考えている団体やアジアのクライミングの責任者にも参加頂いた。名簿、名札の作成に影響があった。日本への到着時間についても揺れ動いたため、数少ない宿泊施設に海外の方にどのように満足して泊まってもらえるかなど、対応に苦慮した。

2. 開催期間

受付については、開催が始まってからは大きな問題は出てこなかった。一部２ケ国は健康上の理由や、自国内の運営の都合で不参加になった。

平和記念公園での記念撮影

11月22日夜の歓迎パーティは、ネパール大使を迎え、広島県山岳連盟の京オ会長の歓迎の言葉、主催者と来賓の挨拶、乾杯の音頭があり、滞りなく進行した。

11月23日は、平和記念公園にて各国の言葉で平和を宣言し、参加者全員が献花を行い、記念写真を撮った。午後は自然保護団体が中心になり、山岳フォーラムを開催。海外団体も含め、複数の自然保護団体が英語で意見を発表した。

11月23日夜の記念祝賀会には、広島市の松井一實市長も出席。スピーチを行って頂き、豪快な広島庚午太鼓団による和太鼓、佐伯区湯来町の大森神楽団による八岐大蛇の舞などで大いに賑わった。法被も海外の参加者に贈られ、ご満悦の様子であった。

11月24日の昼は、多くの参加者が宮島・弥山にてハイキングを行った。天候にも恵まれ、宮島の鳥居にもかなりの興味を示していた。瀬戸内海は残念ながら霞んでよく見えなかったが、紅葉も見られよかった。さらにその夜には、銀河クルージングで海から夜の宮島の鳥居がライトアップしている場面が見られ、幻想的な風景に皆、酔っていた。

11月25日は、本来一番大事な総会である。9ケ国・地域13団体の参加。多くても1団体3人までと出席を制限し、他の方は傍聴に回って頂いた。各団体の行動発表、ＵＩＡＡスタンダード、記念誌のこと、20周年を記念しての表彰者について（12月一杯までに候補者をUAAA事務局に送ること）等が主なテーマであった。最後に広島宣言（英文）が採択された。本誌に掲載されるのは原文である日本語である。

夜は、さよならパーティ。だいぶ親しくなったせいもあり、話が弾み、次回の再会を約束し合った。

「平和都市広島から山への感謝と尊崇を」ひろしまアピール2014

「人間は自然の子であり、地球は人類の学校である」と言われる。

私たちは、これまで「自然」から多くの恵みを受け、ときには厳しい試練にさらされながら衣食住を整えてきた。

その一方で「自然は人間に従属するもの」という、思い上がった振る舞いによって、大気や、水や土壌を汚し、かけがえのない森林や生態系を破壊してきた。

山との深いかかわりを持つ私たちは、「人間が、少しでも自然に手を加えれば、自然・環境への負担が必ず生じる」ことを身もって体験し、「山に大きな負担をかけてはならない」ことを心に銘じ、山の自然を保護するために、実行可能な行動目標を提示し、小さなことを大切にしながら、世界の山仲間とともに取り組んできた。

日本では、今年「国民がこぞって、山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」として、国民の祝日「山の日」が制定された。

まさに、山の自然保護を考えるチャンスであり、人々が自然に寄り添い、生きる原点に立つことになる。

私たちは、平和都市「ひろしま」から、山への感謝と尊崇を第一に、山への負担の軽減と環境保護のため、全力を挙げて取り組むことをここに宣言する。

2014年11月25日
アジア山岳連盟（ＵＡＡＡ）創立20周年記念総会

3. 一連の行事を終了して

まだ完全に終わった訳ではなく、ＵＡＡＡ参加団体の過去数年間の活動を纏める記念誌の作成、前述表彰者の決定、会計処理などが残っている。

（記　小野寺　斉）

ネパールへ行かれるなら
風の旅行社名古屋にお任せ下さい
ご友人同士、ご夫婦等、あなただけのオリジナルプランをご提案いたします。勿論、現地では日本語ガイドががっちりサポート！
是非、お気軽にご相談下さい。
株式会社
風の旅行社名古屋
愛知県知事登録旅行業第3-1367号 日本旅行業協会正会員
総合旅行業務取扱管理者　古谷 朋之
〒460-0008　名古屋市中区栄3-7-12　サカエ東栄ビル6F
TEL 0120-987-321　FAX 052-228-6232　e-mail nagoya@kaze-travel.co.jp

新企画 “ツアーリーダー 谷口けい同行企画”
エチオピア最高峰ラスダジャン(4,533m)
登頂と世界遺産探訪 15日間
発着地 東京・大阪
出発日 3/24(火)
旅行代金 ¥698,000
※燃油サーチャージ（2014年11月18日現在：目安約51,000円）が別途必要です。
旅行企画・実施　観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員／ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪☎06-6444-3033　名古屋☎052-581-3211　福岡☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

第53回全日本登山体育大会・徳島大会

「山岳信仰と平家伝説のロマンが漂う山」

第53回全日本登山体育大会・徳島大会は、北は北海道、南は九州・鹿児島県の31都道府県から170名の岳人が集い10月11日～13日に徳島県内の3市1町を会場に開催された。

開会式、記念講演、閉会式及び懇親会は徳島市内のホテルで行い、記念講演終了後、直ちに登山口の宿泊施設へ移動し、翌日の登山活動に備えた。

登山コースと会場地は、①剣山・ジロウギュウ（三好市）②赤帽子山・丸笹山（美馬市、つるぎ町）③三嶺（三好市）であった。

今回の大会は、Aコースが初日の宿泊先に頂上ヒュッテを設定しており、アプローチの都合で先発したため、全員参加の開会式にならず変則的な式となった。台風接近で一時はどうなることかと思ったが、皆様方の気合いで台風もたじろぎ、当初の予想より接近が遅くなり行動中の直撃は免れた。行動中の天候は曇り空であったが、まずまずの登山日和であった。行動においては怪我やトラブルもなく、元気一杯の姿で閉会式場である徳島市へ戻った。

閉会式は、午後6時30分から始められ「講評」、「会長挨拶」、「徳島から宮城への聖杖引継ぎ」、「宮城大会への案内」がなされた。引き続き交歓会を行い、午後9時30分に全ての行事を終え散会した。

しかし、翌日は台風の接近に伴い、交通機関の欠航が相次ぎ、もう一日徳島に滞在せざる負えなくなった岳友が多く出たことが残念であった。今後への課題を残しつつ終えた徳島大会ではあったが無事終えたことに胸をなで下ろすと共に関係者の方々のご尽力の賜物と感謝しています。

各行事の大要は以下の通りである。

Aコース

開会式

【開会式】

式に先立ち、参加者全員で先日多くの岳人を失った御嶽山噴火に対する黙祷を行った。次いで主催者を代表して挨拶に立った神﨑忠男会長から「全日本登山体育大会の生い立ち」「（公社）日本山岳協会（以下日山協）として本大会へ期待すること」として、登山界の発展、普及と振興への思いを語られた。この中で日山協の理念と言うか目標は、「日本登山界のリーダーとして正しい登山環境、健全な登山環境を作り、社会に親しまれる登山界とならないといけない。文部科学省の統計によれば800～1000万人といわれている登山愛好家の殆どが未組織登山者であり、主役はこれらの登山を愛する一人ひとりであることを認識しておかなければならない。日山協は、正しい登山環境、健全な登山環境を作る責任・使命・義務を果たす中で登山環境をつくる場として全日本登山体育大会が適切である。」と公益社団法人格を得て今後の活動の方向性を語られた。

徳島県山岳連盟・原秀樹会長から「自然豊かな徳島

Bコース

県に多くの岳人を迎え、第53回全日本登山体育大会・徳島大会を開催することができ感謝の気持ちでいっぱいです。日本百名山である剣山を中心に山の自然、紅葉を楽しんでいただきたい。第5回大会で全国の岳人が持ち寄って築いたケルンを見ていただき、50年の時間の流れを感じてほしい。台風が近づいており不安な面はあるが、全国から岳人が集まり親睦を深め、友情の輪を広げ、意義深い思い出に残る大会となることを祈念している」旨の挨拶があった。

飯泉嘉門県知事、多田昭弘副市長が出席されて「剣山国定公園指定50周年の記念すべき時に皆様方を迎えられて喜んでいます。スポーツ王国徳島として登山活動を応援しています。登山環境を良くするよう努力していますので、山の自然を満喫してほしい」ことなど徳島の特徴及び地元のセールスポイントの紹介を含む挨拶を頂いた。特別表彰は、受賞者がすでに頂上ヒュッテに向けて出発していたので、急遽閉会式の折に行うこととなった。

宣誓は、北海道山岳連盟の荒堀秀雄さん、大分県山岳連盟の江村加代子さんのお二人により「剣山山系の自然と景色を楽しみながら登山する」と力強い宣誓がなされた。

【記念講演】

演題「剣山山系のシカ被害による自然環境の変化について」

講師は、ＮＰＯ法人三嶺の自然を守る会会長・暮石洋氏。

剣山山系の貴重な自然生態系が増えすぎたニホンジカの食害により、急激に破壊されている実状を多くの写真を交えての講演であった。「シカ食害の現状は行政や自然保護団体だけでなく、広く県民にも知っていただくことが大切であり、今後、剣山山系の希少種植物や天然樹林帯の保全、林内の浸食・崩壊の防止、そして、美しい山々の景観の保全へつながることを願っている。」と締めくくられた。

Ｄコース

Ｃコース

【登山行動】

10月中旬にもかかわらず、台風が２週続けて日本に上陸するという異常気象の中、現地本部（気象庁ＯＢを含む）および行動隊長の適切な判断により、一部コース変更があったものの、以下に示した計画時間内に行動を終えることが出来た。登山会場への往復に案じられていた交通渋滞は、台風接近が功を奏し、スムーズな移動ができた。

Ａコース： 剣山（1955m三好市）
距離5.3km　所要時間３時間00分

Ｂコース： 赤帽子山（1611m美馬市）、
丸笹山（1712mつるぎ町）
距離7.0km　所要時間５時間00分

Ｃコース： 剣山（1955m三好市）
距離7.4km　所要時間５時間30分

Ｄコース： 三嶺（1894m三好市）
距離10.0km　所要時間６時間00分

Ｅコース： 剣山（1955m三好市）
距離5.3km　所要時間４時間20分

【閉会式】

閉会式に先立ち、開会式で先延ばしになっていた特

Ｅコース

別表彰が行われ、神﨑会長から「平成26年度全日本登山体育大会10回参加表彰」６名に賞状と記念品が贈呈された。

仙石富英常務理事から講評があり、「徳島県山岳連盟が剣山の自然を愛し大切にしていることを実感した。台風接近にも関わらず沈着冷静な判断であり、スタッフ・マニュアルや現地本部と各登山隊との情報共有によりスムーズな運営となった」との評価であった。

神﨑会長挨拶では、多くの岳友と自然豊かな山を共に歩き元気をもらいました。来年は東北で「自然を大切に、仲間を大切に、命と健康を大事しよう」を合言葉に宮城での再会を期する言葉があった。

徳島県山岳連盟から宮城県山岳連盟への聖杖の引継ぎに続き、宮城岳連・吉田弘司副会長から「第54回全日本登山体育大会・宮城大会の概要説明と多くの岳人への参加の呼びかけがあった。

【懇親会】

親睦を深め、友情の輪を広げ、意義深い思い出に残る大会となることを願い、狭い会場ではあったが参加していた全ての岳人と各コースのＣＬ及びＳＬを含め開催した。行動中に撮影した写真を会場スクリーンで映写し、一日の行動を振り返ってもらった。隣の会場では行動隊役員全員が控え、共に親睦を深め合い盛況の内に終えることが出来た。特に、本県を代表する郷土芸能である阿波踊りでは、皆様が一つになって盛り上がった。お開きとなって会場を去る岳人の満足したにこやかな顔を目の当たりにして、大会を開催して心から良かったと感じた。

（徳島県山岳連盟理事長　椎野彰浩）

平成26年度中高年安全登山指導者講習会（西部地区）報告

11月１日～３日、国立登山研修所・日本山岳協会主催の平成26年度中高年安全登山指導者講習会が蒜山（岡山県）にて開催されました。

国際山岳医として活躍しておられる大城和恵先生から山岳ファーストエイド（致命的外傷への対応）を机上、実技、縦走登山で実技研修と繰り返し学習。国際的なファーストエイド法『3SABCDE』の初歩を学びました。

名古屋工業大の北村憲彦先生からは中高年登山者の遭難実態を、横綱白鵬のスポーツトレーナー経験もある知野享先生（ファイテン）からは登山に応用できる身体ケア方法を教えて頂き、とても充実した３日間でした。

『３ＳＡＢＣＤＥ』とは、山岳遭難者・負傷者を見つけた時の対応手順。

Ｓ =safety（安全）先ずは救助する自分の安全

Ｓ =scene（状況確認）

実技講習

Ｓ =spine（頭・首・背中をまっすぐ）

Ａ =airway（気道確保）話せるか？口のなかは？

Ｂ =breathing（呼吸）息をしているか？

Ｃ =circulation（脈をとる）手のひら発汗確認、頭～足指先までの出血を確認

Ｄ =disability（障害）頭から足の指先まで触って異常を探す

Ｅ =exposure（暴露を避ける）遭難者を寒さ・雨風雪・日射から避ける

『３ＳＡＢＣＤＥ』の後、低体温症（西日本では問題意識が低いと思われる。）判断やラッピングによる緊急対応トレーニングを行いました。

当岳連では講習会全体の構成と進行を受け持ちましたが、今回の講習会で最も悩んだのは３日目の研究協議の内容をどのようなものにするかということでした。１日目と２日目の講習は、講師陣とその講義内容から考えて、面白く、充実したものになることが間違いあり

ません。問題は講習の充実した内容を各受講者が学ぶ上で、それを自分の知識と経験の範囲に留めず、自分から他に伝達してゆくために学ぶという意識をいかにして継続して頂くかということでした。

指導者のための講習会であるからには、受講した皆さんが各自の山岳会でフィードバック講習をしやすくなるノウハウを盛り込みたかったのですが、具体的な指導方法を講習内容とするには時間も準備も足りず、結果的には『各自の山岳会でフィードバック講習を行う際の具体的方法と問題点と解決案を考える』ことを主題にグループに分かれて協議し発表していただきました。

各グループの発表内容からは、参加人数の少なさや講師人材の不足など切実な課題が浮き彫りになり、それに対する方策（将来ではなく今出来る方法に限定しました。）も示され、指導者のための講習会という主題に少しは触れることができたかと思います。

講習会終盤の大城先生から講評が印象的でした。それは、講義を受けることに満足するだけでなく、これをきっかけに自分の登山姿勢を見直すこと、そして厳しい登山を経験すること、というお話だったと私は受け止めました。技術的な勉強だけでなく、山と自然の怖さを知ることがさらに重要である、ということだと思います。

知識や技術は、それが安全啓発パンフレットの箇条書きであっても何かの助けにはなります。しかし最も心に留めておきたいのは、遭難することへの恐怖感、常に失わない山への畏怖。模範的で優秀な登山者でも遠慮無く殺してしまう自然の圧倒的な理不尽さには、人間は無力であることです。その怖さを知って、怖さを乗り越える工夫と努力を求められるのだろうと思います。

しかし恐怖感を維持するのは難しい。しかも楽しくない。人間は楽しむことが本能ですから、楽しさに恐怖感を忘れることもあります。そこを突かれると遭難事故に繋がってしまう。出来ればいつもピリピリ緊張しているのではなく、もっと自然に、しかも安全に登りたい。ではその安全はどこにあるのでしょうか？

登山の安全というのは、身の回りに落ちている『安全』をこまめに一つずつ拾い集めている落ち穂拾いのようなものだろうと思います。新聞を読むついでに少し天気図解説を見ておくとか、登山届をもう一枚余分に印刷して留守宅において置くとか。

これをすれば決定的に安全という方法がないので、『安全』の断片が自分の廻りに落ちているのを一つずつ拾い集めて、その落ち穂拾いを下山完了まで続けているように感じます。

例えば先頭を歩いていて、後続の人が躓きそうな石をルート外にそっと蹴り出しておくようなことも、そういった落穂拾いだろうと思います。休憩時にちょっと水を飲んでおくとか、仲間の顔色を確認しておくとか、小さな安全対策は限りなくあるものです。

それとコインの裏表のようなものですが、これをやったら必ず遭難するとか、遭難原因はこれだ！　というような決定的な原因というのもあまり無いものです。

遭難事故は些細な判断ミスや小さな間違いが積み重なって、それら１つずつの間違いは大したことがないのに、最終的に遭難者を事故まで追い詰めてしまう。解かりやすい決定的な原因があれば対策も簡単なのでしょうが、気づかないような些細なミスを根絶することはほぼ不可能です。山に登る人たちは、そんな風に『安全』の落ち穂拾いをしながら、一方で『些細な間違い』を積み重ねながら、その両方のバランスの上で綱渡りをしているのだろうと思います。

自分たちはそんなバランスの上で危険と隣り合わせで山登りをしていることを自覚すること。今回の講習会でそこまで考えを進めてみようというのが、大城先生の言葉だったのではないかと思います。

（岡山県山岳連盟理事長　山崎裕晶）

机上講座

2015年 新春懇談会

新春恒例の新春懇談会を下記の通り、開催致します。お誘い合わせの上、奮ってご参会下さい。

日　時　平成27年1月17日（土）13時～15時
会　場　アルカディア市ヶ谷「富士の間」
千代田区九段北4-2-25　☎03-3261-9921
交　通　「市ヶ谷」駅徒歩２分
（JR総武線、東京メトロ南北線、都営地下鉄新宿線）
会　費　お一人１万円

第73回 Mountain World

冬季Ｋ２への足取り

池田常道

まだ冬に登られていない8000ｍ峰がナンガ・パルバット（8126ｍ）とK2（8611ｍ）だけになったことは、本欄でも何度かお伝えしてきた。今季はそのＫ２に強力なチームが挑むことになった。それも中国・新疆側から新ルートへの挑戦である。以前のカザフからロシアに国籍を戻したデニス・ウルブコが率いるのは、同じロシアのアルチョム・ブラウン、ドミトリ・シニェフにポーランドのアダム・ビエレツキとスペインのアレハンドロ・チコンを加えた５人チーム。この計画が生まれたのは、春に同じ顔ぶれで北面からカンチェンジュンガ（8586ｍ）に挑んだ際のことだったという。

8000ｍ峰14座登頂者であるウルブコは2009年のマカルー（8485ｍ）、2011年のガッシャブルムⅡ峰（8034ｍ）と冬季２座の8000ｍ峰に初登頂している。ビエレツキも2012年のガッシャブルムⅠ峰（8080ｍ）、2013年のブロード・ピーク（8051ｍ）に登って、ポーランドの伝統を継承する冬季クライマーとなった。チコンは2011年、12年と２年続けてゲアハルト・ゲシュルの冬季ガッシャブルムⅠ峰挑戦に参加した経験者。ブラウンとシニェフは初めての冬季8000ｍである。

一行が予定しているルートは、1978年に米国隊がパキスタン側から登った北東稜で、新疆側から取付くのは今回が初めてである。ウルブコは2003年冬に、ポーランド＝カザフ合同隊（クシストフ・ヴィエリツキ隊長）に加わって北稜日山協ルートを7680ｍまで登り、冬季Ｋ２の最高到達高度を記録している。彼は8000ｍ峰14座登頂を目指す過程で、2011年８月に北稜を登っており、この２回の経験から今回は北東稜に可能性を求めたようだ。

＊

1980年にエヴェレストの冬季初登頂を成功させたアンジェイ・ザヴァダは、次の目標をＫ２に定め、８３年にカナダ在住ポーランド人のジャック・オレックと偵察に赴いた。その結果、パキスタン政府は冬季登山の許可を出すことに消極的で、ＢＣまでの輸送コストも予算を大幅に超過することが分かった。そこで、カナダと英国から隊員を招いてスポンサーの拡大を図るとともに、粘り強く許可交渉を続けた。努力は報われ、遠征は1987年12月から開始された。冬にポーターを雇ってキャラバンするのは費用がかさむので、14㌧の荷物は10月のうちにBCまで運んでおいた。ポーランド13人、カナダ７人、英国４人にサポートと撮影班を加えて総勢32人となった一行は12月25日ＢＣに着いた。

１月５日、マチェイ・パフリコフスキ、マチェイ・ベルベカ、クシストフ・ヴィエリツキがジョン・ティンカー（英）と6100ｍにC1を設営。数日後、ヴィエリツキとレシェック・チヒのエヴェレスト・コンビがハウスのチムニーを突破して6700ｍにＣ２を設けた。しかし、その後悪天候が続いてルートは伸びず、ヴィエリツキとチヒが7300ｍのＣ３に到達したときは３月２日になっていた。その４日後にもロジャー・メア（英）とジャン＝フランソワ・ガニョン（カナダ）が同じ地点まで登ったが、その夜に風が強まり、両者ともひどい凍傷を負って引き下がるほかなかった。

Ｋ２への攻撃はこれで諦めたが、その間にベルベカはアレクサンデル・ルヴォフと二人でブロード・ピークをアルパインスタイルで攻めた。ルヴォフが３日目7700ｍで引き返したあとも登り続けて前衛峰に立った。彼は当時主峰に立ったものと思っていたが、帰国後に写真を検討して前衛峰だったことが分かった。それでも、これはカラコルムで初めて登られた8000ｍの頂だった。ベルベカは2013年に主峰に立って、じつに25年ぶりに宿願を果たしたが、頂上からの帰途後方に遅れ、消息を絶ってしまった。

＊

Ｋ２に失敗したポーランドは、その後しばらくナンガ・パルバットに努力を傾注するが、1997年にクシストフ・パンキェヴィッチ隊長のチームが7900ｍに達したのを最高到達点として頂を得るまでには至らなかった。2006年にもクシストフ・ヴィエリツキ隊長が南西稜の6800ｍで敗退している。

Ｋ２計画が再興されたのは2003年のことで、ヴィエリツキが隊長の任に就き、カザフスタン、ウズベキスタン、グルジアなど旧ソ連勢との合同隊14人と同数のサポート隊を率いた。12月30日5100ｍにＢＣを置き、１月20日には6750ｍにＣ２。しかし、ポーランドとカザフ勢との折り合いがつかず、ウルブコ以外の３人が離脱。２月25日、ウルブコはポーランドのマルチン・カチカンと7650ｍのＣ４に入ったが、２日後にカチカンが脳浮腫を発症、救助作戦で登山は終わりを告げた。

その後、冬のＫ２に挑んだのは、南南東リブの7200ｍに達した2012年のロシア隊だけである。

新連載

北から南から ブロック便り
全国高体連登山専門部

公益財団法人全国高等学校体育連盟登山専門部は、今年度より日本山岳協会に48番目の団体として加盟しました。これは、日本山岳協会の公益社団法人化に伴うもので、青少年育成事業の助成を公益社団法人の最重要施策と位置づけました。また，日本山岳協会が主催する大会の競技性を確立し、ドーピング検査などによる選手の身分を保障するため選手登録制度も導入しました。登録制度発足から約半年が経過しましたが、7,500名を超える選手が日本山岳協会に登録を済ませ、登山やスポーツクライミングに熱心に取り組んでいます。近年の登山ブームの影響も少なからずあるとは思いますが，高校生人口が減る中で岳人を目指す若人が増えることは山岳関係者として何より喜ばしいことです。

全国高体連登山専門部が産声をあげたのは昭和31年10月28日、大阪で開かれた全国代表者会議のときです。ここで組織や規約が承認され、第１回全国高等学校登山大会を近畿高体連が担当して実施することが決められました。そして、栄えある初回の大会が，翌昭和32年８月17日から20日まで、奈良県の大台山系、大峰山系で、全国から男子53チーム、女子７チーム合計396名の選手が参加して開催されました。大会２日目から台風接近により大台ヶ原は大雨となり、３日目は豪雨となり行動中止。最終日は水没した登山道を下山したそうです。

第２回は石川県の白山で開催され，神﨑忠男会長が選手として出場されました。山形県の朝日連峰で開催された第５回大会には，槇有恒氏が講演会講師として招かれ、昭和40年の第９回大分大会から、全国高校総体の19番目の競技として仲間入りし、インターハイの名称で呼ばれるようになりました。そして昭和41年の第10回岩手大会から、日本山岳協会が主催団体となりました。

昭和42年の第11回富山大会から優秀校を表彰するようになり、このころから競技性が強まったようです。同年６月には富山県立山町に文部省登山研修所が発足し、文登研で第１回高等学校登山指導者研修会が開催されました。時は流れ、平成６年の第38回富山大会より１位から６位まで順位をつけるようになり、現在のような審査体制が整ってきました。

平成18年の奈良大会は，第50回記念大会として８

月21日から25日にかけて、折しも第１回大会と同じ大峰山系・大台山系で開催されました。奈良は第８回大会も開催しましたが、記念すべき第50回大会が全国高等学校登山大会発祥の地で再び開催されたのです。偶然を超えた先人達の熱い想いが、奈良に若人を呼び戻してくれたのではないでしょうか。閉会式に先立ち，第１回大会に役員として参加された奈良県山岳連盟顧問の山口健次郎氏をお招きし「生涯山岳部員で」の演題でご講演をいただきました。また閉会式終了後には、橿原ロイヤルホテルにて50周年記念祝賀会が，田中文男前日本山岳協会会長をはじめ、高体連登山部にゆかりのある190名もの関係者のご参加を得て、盛大に行われました。

インターハイは今年の神奈川大会で58回目を数えましたが、最近はスポーツクライミング大会にも傾注し、全国高等学校選抜クライミング選手権大会は今年で５回目を迎えます。１２月冬休みの時期に埼玉県加須市で開催されるこの大会は、地元山岳連盟の多大なご支援ご協力をいただきながら運営しています。夏のインターハイ登山大会、冬の全国クライミング選手権大会、どちらの大会も日本山岳協会との共催関係をさらに熟成し、次世代を担う若き岳人を育成するため努力していく所存です。全国高体連登山専門部は日山協加盟団体として、まだ半年程度の新参者ですが今後ともよろしくお願い申し上げます。

2014 IFSC ワールドユース 尾上（女子Jr.）金

2014年のＩＦＳＣワールドユースは南半球、ニューカレドニアのヌメアで行われた。当初８月に予定されていた同大会だが、2013年のクリスマスに壁が焼失した影響で９月開催となってしまう。もともと、渡航費が高いとの指摘に加え、夏休みを外れてしまったことも重なり、参加人数はここ最近の最低ともいえる26か国からの340名程度。強豪国ではドイツなどが参加せず、他の北半球に属する国も軒並み通常よりチームを絞ってきている。開催国と言えるフランスでさえ、本国からは６名、ニューカレドニアからは２名という状況であった。一方、ニュージーランドやオーストラリアは、通常より大きめのチームサイズであった。ちなみにイギリスは１名当たり自己負担が約50万程度かかっているという。（経路はロンドン・ヘルシンキ・大阪・ヌメア）日本からは例年とほぼ同規模の選手16名で参加。

９月20日　リード予選初日

順番の早い選手は、ホテルで朝食もとることができず、朝６時のシャトルバスで会場に向かう。他は７時のシャトル。会場まではバスでおおよそ15分程度の距離である。

壁は新設の巨大なサイズ。余裕で６つのカテゴリーが同時進行できる幅と十分な高さをもつ日本にはないサイズのもの。壁の裏がボルダーエリアとなっており、そこがウォーミングアップゾーンという作り。

日本からの時差はそれほどないとは言うものの、長旅の疲れと、早起き（現地６時は日本時間４時！）のせいか予選１本目は、何人かの選手に動きの硬さがみられた。とはいえ、参加人数の少なさもあり順調に終了する。

その後は謎の待ち時間。２本目開始まで最低でも６時間以上。ホテルには戻れないので、会場内の屋根つきのチームエリアに選手が集められ、時間をつぶす。

全ルート日本という状況も

会場にて

その間に雨が降ったり、気温が一気に下がる。このあたりの過ごし方がポイントであった。

２本目はナイター。

昼間より気温は下がり、若干湿気がでているような感じだが、ぬめりを気にするほどではないという者が多かった。１本目よりはいい感じの登りで日本は全員が予選を通過。

９月21日 セミファイナル

女子Jr.などは参加者が少ないため全員予選通過であった。実質的に今日からが大会本番である。日本チームは参加16名全員決勝進出を目指したが、決勝に進めたのは10名であった。昨年アピールにより順位を大きく落とした男子Jr.の是永は当初、余裕の決勝進出に見えたが、ボルトをフットホールドに使用したという判定で決勝進出を逃す。一方で、男子ＹＢの田嶋は、日本のネット中継観戦者からの連絡で、ビデオを確認後、抗議を行い、なんとか決勝に滑り込むことが出来た。６ルート同時の進行であり、コーチ席から壁には相当な距離があり、会場も相当混乱していたため、このような連絡が入らなかったら、我々スタッフも見逃してしまっていた可能性が高い。また同様に是永のボルト

女子ジュニア優勝の尾上選手

使用に関してもネット中継をもとにした情報もあったようである。いいような悪いような感じがした。

9月22日　決勝

決勝はナイターでカテゴリーごとに２日間に分けて行われた。

まずは３カテゴリー。男子ＹＢとＹＡ、女子ＹＢ。日本は５名が決勝に登場したものの表彰台は０。日本はリズムが悪く、遅く（よく言えば丁寧）、高度を稼ぐことなく落ちてしまう。まるで５～６年前に遡ったかのようなクライミングを目の当たりにした。昔の日本ユースチームの典型的な登りであった。コーチスタッフが日常的に各代表選手の指導をしているケースは稀である。とは言うものの、スピードとリズムの重要さはずっと訴えてきたつもりだったので、結局なにも通じていなかったかと無力感を感じずにはいられなかった。

9月23日　決勝

男子Jr.と女子YA、女子Jr.の決勝。当初はナイター予定だったが、悪天候が予想されるため予定を５時間ほど早めての開始となる。男子Jr.では、またもボルト使用により島谷が順位を３位から４位へと落ちてしまう。チームのビデオ映像では使っていないように映っていること、また表彰台がかかっているため、抗議を行うが、判定は覆らない。

女子Jr.の尾上が終了点まであと一手に迫る。彼女はこれまで出場可能だった、６回すべてのワールドユースに出場してきたが、表彰台は逃してきた。今年こそはという意気込みもあったのかもしれない。最後の選手ＡＵＴは、尾上が相当な上に行ったことが伝わったせいか、下部から相当慎重な動きで高度を上げるが、全くの同高度。予選＆セミファイナルも全く差がない。結局タイム勝負でおおよそ30秒早かった尾上が優勝。日本に唯一のメダルをもたらす。

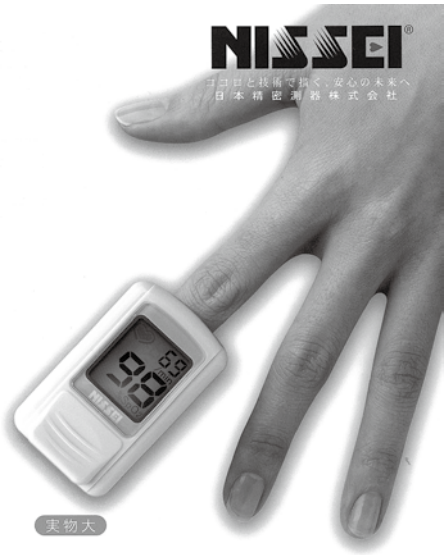
今回目立ったのはボルト使用の判定である。日本だけではなくイギリス、フランス、ベルギーなどの各国の有力選手がボルト足で順位を落としている。その一つの要因が、WEB中継の観戦者からの連絡のようだった。会場は非常に大きく、複数ルートの同時進行ということもあり、ビデオ・双眼鏡でも詳細の確認ができないことが多かった。WEB中継を見ている人のほうがよくチェックできるのだろう。チーム関係者にはWIFIが解放されている影響か、おそらく自国関係者と頻繁に連絡をとっている（他国）チームが非常に目立った大会だった。

（記　小日向徹）

第5回 全国高等学校選抜クライミング選手権大会おめでとうございます。

弊社ではパルスオキシメータ（経皮的動脈血酸素飽和度計）“パルスフィット BO-600”を格安の値段で提供させて頂いております。ご希望の方は、下記までお申込み下さい。

1.8 万円 !!
ポッキリ



田中産業株式会社
〒113-0033　東京都文京区本郷 3-16-3　電話：03-3814-7181

福島県山岳連盟創立60周年記念祝賀会

福島県山岳連盟の創立60周年記念祝賀会が去る8月30日に福島市のホテルで開催された。祝賀会は東日本大震災の復興途上を考慮し、東北ブロックの各岳連等には声がけせず、傘下の加盟団体の方々のみでお祝いした。日山協専務理事の尾形好雄氏による記念講演会「吾妻からヒマラヤへ」の後、和やかな祝宴となった。

出席者には創立60周年記念誌『すべての峯に憩いありⅡ』が配られた。

神奈川県山岳連盟創立60周年記念式典・祝賀会

平成26年11月15日、横浜市のワークピア横浜にて創立60周年記念式典・祝賀会が開催された。日山協の神﨑会長はじめ関東各岳連からの来賓32名、総勢141名の列席を得て盛大に行われた。

出席者には創立60周年記念誌が配布された。

平成26年度理事会（第3回）報告

日　時　平成26年11月9日㈰ 10時30分～14時55分

場　所　岸記念体育会館101 ～ 103号会議室

出席者　**理事**：神﨑忠男、八木原圀明、佐藤旺、尾形好雄、小野寺斉、仙石富英、森下健七郎、京オ昭、水島彰治、瀧本健、青木秀則、相良忠麿、増山茂、北村憲彦、小野倫夫、髙橋時夫、小宮山稔、永山義春、亀井正明、伊藤克己、小林弘之、宮﨑良平、多田修、各理事　以上23名　**監事**：内藤順造、岡本忠良、中畠正喜、以上3名　（欠席者）理事：國松嘉仲、西内博、以上2名

開　会　神﨑会長の挨拶に続いて、定款第32条第1項に定めるところにより、神﨑会長が本会議の議長となり、定款第33条第1項に定める定足数の充足を確認して、本会議の開会を宣言した。

次いで、定款第34条第2項に基づき議事録署名人を神﨑会長、内藤・岡本・中畠各監事とし、議案の審議に入った。

報　告

⑴報告第1号　平成26年度上期事業報告及び会計報告について

尾形専務理事から資料に基づき、平成26年度上期事業が報告された。

質疑では、理事に前年同様、常務理事会の議事録を送付して貰いたいとの要望があった。

続いて相良理事から会計資料に基づき、平成26年度上期の貸借対照表、財産目録、正味財産増減計算書内訳表について報告された。

質疑では、貸借対照表において2,000万円の定期預金が流動資産に計上されているが、これで監査は通るのか。会計報告書をみると予算と決算で差異が見られる科目がある。補正予算については常務理事会に一任してあるのだから補正予算を組んで対処すべきではないか。などの質疑の後、平成26年度上期事業報告及び平成26年度上期会計報告は、出席理事全員が了承した。

⑵報告第2号　平成26年度中間監査報告について

議長の求めにより内藤監事から資料に基づき、平成26年度中間監査報告として総括意見及び主要指摘事項（業務・会計）が報告された。

ワーキング・グループ（W／G）の作業が遅延している理由は何か。退職金の積み増しの指摘ついて退職金を中退共（中小企業退職金共済制度）など外へ出すこと

は考えていないのか。などの質疑の後、平成26年度中間監査報告は、出席理事全員が了承した。

⑶報告第３号　平成26年度上期山岳共済会報告について

尾形専務理事から資料に基づき、平成26年度上期の山岳共済会について報告された。

山岳共済会と行政がタッグを組んで一体となって事業など対応できないか、などの質疑の後、平成26年度上期山岳共済会報告は、出席理事全員が了承した。

議　事

⑴議案第１号　平成27年度事業方針案及び予算編成方針案について

尾形専務理事より、平成27年度の事業計画及び予算編成を立案するにあたり、本会の事業及び予算の基本方針についてご審議頂きたい、と第１号議案の議案説明を行い、説明終了後、議長が議場に諮った。

質疑では、従前は基本方針と個別の事業内容があって、予算編成方針が示されたが、今回、事業内容が示されないのは、何故か。中間監査報告での指摘事項なども事業方針案、予算編成方針案に加筆すべきではないか。などの質疑の後、賛否を諮り、賛成23、反対０で承認可決された。

⑵議案第２号　会員規程及び賛助会員に関する内規の改訂について

尾形専務理事より、将来的に寄附金収入の増加を図るためには税制優遇のメリットの大きい税額控除の認可を受ける必要がある。そのためにはＰＳＴ要件１（実績判定期間における、3,000円以上の寄附者が100人以上）をクリアしなければならない。そこで、現在、参与の方にお願いしている個人賛助会員会費（会費１万円、事務手数料2,000円）を会費2,000円とし、残りを寄附金として納入させていただくために、「会員規程」及び「賛助会員に関する内規」の一部改訂を提案するもので、ご審議頂きたいと、議案第２号の説明がなされた。

質疑では、寄附は強制できない。寄附を納めない人に対する資格要件の処遇はどうするのか。税額控除のメリットも大事だが、余り拙速に進めるのも如何なものか。などの質疑があり、結局、議案第２号は再検討することになり、尾形専務理事が議案を取り下げた。

その他

⑴業務執行理事の職務執行報告について

議長より、法令に基づき代表理事（会長）及び業務執行理事から平成26年度上期の職務執行報告を行うとの説明があり、神﨑会長及び業務執行理事から職務執行報告書の資料に基づき順次、各自の職務執行を報告した。

⑵ＵＡＡＡ創立20周年記念総会・広島山岳平和祭の準備について

議長及び小野寺常務理事から資料に基づきＵＡＡＡ創立20周年記念総会・広島山岳平和祭の準備状況が報告された。

⑶第53回全日本登山体育大会・徳島大会報告について

仙石常務理事から第53回全日本登山大会・徳島大会の報告が行われた。

⑷第69回長崎国体山岳競技大会報告について

京オ常務理事から資料に基づき第69回長崎国体山岳競技大会の報告が行われた。

⑸ＵＩＡＡ総会報告について

小野寺常務理事から資料に基づき10月に米国・アリゾナ州で開催されたＵＩＡＡ総会の報告が行われた。

⑹Ｗ／Ｇの経過報告について

北村理事から資料に基づき組織Ｗ／Ｇで行ってきた「登山部統合準備委員会のまとめ」について報告を行った。

⑺平成26年度特別事業報告

ア　日中韓登山技術交流研修会について

尾形専務理事から資料に基づき「日中韓登山技術交流研修会」について報告が行われた。

イ　ＩＦＳＣクライミングＷＣ印西2014について

尾形専務理事から資料に基づき「ＩＦＳＣクライミングＷＣ印西2014」について報告が行われた。

閉　会

以上をもって全ての議事の審議を終了したので、議長は14時55分、閉会を宣した。

平成26年度全国参与会報告

第53回全日本登山体育大会・徳島大会に合わせて10月11日に徳島市のホテルサンシャイン徳島アネックスで全国参与会が開催された。日山協からは坂口・国澤・田中・本木各顧問、神﨑会長、八木原副会長ら10名の顧問・役員が出席し、参与は全国から８名が参加された。Ａコース参加の方は、参与会に出席できない日程のため、申し訳なかった。

神﨑会長挨拶の後、今年逝去された４名の参与物故者に黙祷を捧げた。其の後、出席者に自己紹介を含め近況報告をしていただいた。

本年度の永年参与感謝状贈呈者は、４名おられたが、どなたも出席されなかったので、お名前だけ紹介させていただいて、感謝状は後送した。

次いで尾形専務理事より、平成２６年度の組織・役員体制、財政状況、事業概況などの現況を報告した。

参与からの質疑応答では、年々参与が減少している。もう一度全国に呼びかけて増員を図るべきではないか。ブロック大会用に仮設のクライミング・ボードを設置した。施設保険を検討して貰いたい。全日大会は、行楽シーズンを外した日程にして貰いたい。などのご意見を頂いた。

（記　尾形好雄）

平成26年度11月（26年11月）常務理事会報告

日　時　平成26年10月30日㈭
17時30分～20時40分
場　所　岸記念体育会館103会議室
出席者　神﨑会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京オ、瀧本、青木各常務理事
欠席者　國松副会長、水島常務理事、中畠監事（理事13名中11名出席）

1．議 事

⑴平成26年度10月常務理事会議事録の承認について（承認）
⑵第３回理事会議案・報告について（承認）
⑶「会員規程」及び「賛助会員に関する内規」の改訂について（承認）
⑷報告
ア　平成26年度上期事業報告及び業務執行理事の業務報告について
イ　ＵＡＡＡ創立20周年記念総会の準備状況について
ウ 広島山岳平和祭の「広島宣言」について
エ　第64回日本スポーツ賞候補者（小林幸一郎）について
オ　平成26年度ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞候補者（北山真）について
カ　ＵＩＡＡ総会報告
キ　事業ＷＧ報告
ク　登山部統合準備委員会報告
ケ　第53回全日本登山体育大会・徳島大会報告
コ　第69回長崎国体報告
サ　ＩＦＳＣクライミングＷＣ印西2014 報告
シ　平成26年度雪崩災害防止功労者の決定について
ス　新春懇談会特別表彰の候補者推薦依頼について
セ　第５回全国高等学校選抜クライミング選手権大会開催要項について
ソ　平成26年度山岳レスキュー講習会（積雪期・東部地区）開催要項について

2．役員等の派遣について

⑴平成26年度山岳遭難対策中央協議会幹事会（第２回）　10月30日㈭
於：文部科学省　西内常務理事、中川事務局員
⑵第５回自然保護指導員研修会
11月８日㈯　於：国立オリンピック記念青少年総合センター
石倉委員長ほか
⑶火山情報の提供に関する検討会（第２回）　11月12日㈬　於：気象庁2F講堂　尾形専務理事
⑷神奈川県山岳連盟創立60周年記念祝賀会　11月15日㈯　於：ワークピア横浜　神﨑会長
⑸山岳団体自然環境連絡会
11月17日㈪　於：労山事務局
石倉委員長、徳永・松隈副委員長
⑹登攀技術研修会　11月29日㈯～30日㈰　於：岡山県　瀧本常務理事
⑺東北ブロック競技部研修会
11月29日㈯～30日㈰　於：岩手県
西原委員長
⑻四国ブロック競技部研修会
12月６日㈯～７日㈰　於：香川県・高松テレサ　古林常任委員
⑼第18回日本ワールドゲームズ協会総会　12月４日㈭　於：赤坂T-Front
尾形専務理事
⑽日本勤労者山岳連盟望年会
12月５日㈮　於：労山事務局
八木原副会長、尾形専務理事、小野寺常務理事
⑾日本ネパール協会創立50周年記念祝賀会　12月６日㈯　於：新宿三井クラブ　尾形専務理事

3．後援、協賛等の依頼について

⑴「山の日」祝日制定記念展「県内の山岳会・山岳部を写真と共にご紹介」後援名義使用（福井県山岳連盟主催）（回答済）
⑵「第35回日本登山医学会学術集会」後援名義使用（日本登山医学会主催（回答済）

4．専門委員会動静

10月常務理事会以降
（10月９日～10月29日）
［報　告］
⑴自然保護委員会
10月９日㈭　出席者12名
ア　９月常任委員会議事録確認
イ　第38回自然保護委員総会について

寄 贈 図 書

雑誌	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」№810 2014.12
会報	山と渓谷社	「山と渓谷」№956 2014.12
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第410号
	横浜山岳会	「月刊 山」989号
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ 自然へ アルク」2104/2015 12・1
	NPO日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.43 2014 October
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」№439 2014.11
	中華民国山岳協會	「中華山岳」243
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第569号
	全日本ボウリング協会	「ＪＢＣ ニュース」第516号
	(公財)日本体育協会	「ＳＰＯＲＴＳ ＪＡＰＡＮ」vol.16
	(公財)日本体育協会	「ＳＰＯＲＴＳ ＪＡＰＡＮ 特別号」2014 11-12
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」№301
	高校生新聞社	「高校生新聞」第221号
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース」2014年11月10日号
	(公財)日本体育協会	「体協フェアプレイニュース」11月10日号
	群馬県山岳連盟	「山岳ぐんま」第103号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」478号（2014年12月号）
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第417号
	東京野歩路会	「山嶺」№1017
	日本山岳会	「山」№834
	FEEC	「VERTEX」num256
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.191
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第315号
	一般社団 日本スポーツプレス協会	「Extreme PRESS」Vol13 2014 AUTUMN
	中国登山協会	「山野　中国戸外」2014.11
	おいらく山岳会	「山行手帳」No660 2014.12

・主催者側計画について
・総会進行について
・ＵＡＡＡ創立20周年記念シンポジュームについて
・参加者状況及びアクセスについて
ウ　第３回関東地区自然保護交流会について
・10/18～19、栃木・那須
エ　第５回指導員研修会について
・11/８㈯、国立オリンピック記念青少年総合センター
⑵競技部委員会
10月９日㈭　出席者16名
ア　第69回長崎国体質問票に対する回答について
・競技会３日目の選手・監督の自家用車での移動について
・台風等の影響により競技日程等を変更する場合の対応について
イ　第70回和歌山国体実施要項作成について
・審判員会議、総合表彰式会場の変更について
・監督への公認スポーツ指導者資格義務付けに係る特例措置の取り扱いについて
ウ　クライミングルートセッター規程及びクライミングルートセッター規程に関する内規の改訂について
エ　登録選手規程の改訂について
オ　第10回ボルダリング・ジャパンカップについて
・２/21㈯～22㈰、埼玉・深谷クライミングヴィレッジ
カ　クライミング日本選手2015“マムートカップ”について
・５/２㈯～３㈰、昭島モリパーク・アウトドアビレッジ
キ　ボルダリング・ユース選手権2015について
ク　アイスクライミング・ジャパンカップの競技施設設置嘆願について
ケ　平成27年度事業計画（案）について
コ　９月常務理事会報告
サ　ＩＦＳＣクライミング印西2014の準備状況について
シ　第５回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の準備状況について
ス　世界ユース選手権（ニューカレドニア）報告
セ　日本トレイルランニング会議（9/24）報告
⑶国際委員会
10月14日㈫　出席者12名
ア　９月連絡部会報告
イ　登山部統合準備委員会報告
ウ　海外登山懇談会について
・11/６、国立オリンピック記念青少年総合センター
エ　第53回海外登山技術研究会について
・３/７～８、国立オリンピック記念青少年総合センター
オ　海外登山奨励金公募の広報について
⑷ジュニア・普及委員会
10月28日㈬　出席者４名
ア　ジュニア登山協室 in 立山2014レポートについて
イ　中高年安全登山指導者講習会（東部地区）報告
ウ　第53回全日本登山体育大会・徳島大会報告
エ　平成26年度上期事業報告
オ　中高年安全登山指導者講習会（西部地区）の準備について
カ　なすかし雪遊び隊2015について
・３/27㈮～28㈯、国立那須青少年自然の家
キ　ジュニア普及情報交換会について
・２/14㈯　16時～19時、国立オリンピック記念青少年総合センター
⑸遭難対策委員会
10月29日㈭　出席者８名
ア　平成26年度山岳レスキュー講習会（積雪期・東部地区）打合せ
イ　新しい雪崩指導法体験会について
・２/21～22、谷川岳天神ロッジ
ウ　平成27年度委員総会について
・関西で実施

５.その他の重要事項
（10月９日～10月29日）
［報　告］
⑴オールスポーツマン・ゴルフ大会キャプテン会議　10月10日㈮
於：岸記念体育会館　尾形専務理事
⑵1964東京五輪50周年記念レセプション　10月10日㈮　於：パレスホテル東京　神﨑会長、八木原副会長、尾形専務理事
⑶第53回全日本登山体育大会
10月11日㈯～13日㈪　於：徳島・剣山周辺　神﨑会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事、仙石常務理事
⑷第69回長崎国体山岳競技大会
10月16日㈭～19日㈰
於：長崎・大村市　神﨑会長、佐藤副会長、森下・京オ常務理事、西原・北山・山本各委員長
⑸ＵＩＡＡ総会
10月16日㈭～20日㈪　於：米国・アリゾナ　フラッグスタッフ
小野寺常務理事
⑹山岳団体自然環境連絡会
10月17日㈮　於：労山事務所
石倉委員長、徳永副委員長
⑺ＩＦＳＣマルコ会長との協議
10月23日㈭　於：岸記念体育会館
神﨑会長、八木原副会長、尾形専務理事、小野寺・森下常務理事、北山委員長、小日向副委員長、笹生委員
⑻平成26年度雪崩防災週間委員会・雪崩防災シンポジウム実行委員会
10月24日㈮　於：国土交通省
小野寺常務理事
⑼ＩＦＳＣクライミングＷＣ印西2014大会　10月25日㈯～26日㈰
於：印西市・松山下公園総合体育館
神﨑会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事、森下・京オ常務理事、西原・北山・山本各委員長
⑽火山情報の提供に関する検討会
10月27日㈪　於：気象庁２階講堂
尾形専務

編集後記

師走に入り例年より寒波の南下が早く寒い日が続いている。今年の話題を自分なりに振り返ると、外ではソチ冬季オリンピック、ＷＣブラジル大会、「山の日」祝日法制定、御嶽山噴火、岐阜県北ア山岳遭難防止条例の制定（登山届義務化）。内では日中韓登山技術交流、印西ＷＣ、ＵＡＡＡ創立20周年広島山岳平和祭、ＷＧ進捗などが思い浮かびます。来年も当協会に御支援ご協力を。
（広報担当　水島彰治）

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
蛭ケ岳山荘　TEL:090-2252-3203（衛星電話）
神の川ヒュッテ　TEL:042-787-2276
和田峠「峠の茶屋」　TEL:042-687-2882
理事長・代表　杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
◦ 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
◦ 陣馬山トレイルレース実行委員会
◦ 八重山トレイルレース実行委員会
◦ 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
大会々長　杉本憲昭

登山月報　第549号
定　価　110円（送料別）
予約年間　1,300円（送料共）
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
（毎月１回15日発行）
発行日　平成26年12月15日
発行者　東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会
電　話　03－3481－2396
ＦＡＸ　03－3481－2395

山岳雑誌 岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人（がくじん）」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳（やま）”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすめです。

購読割引　送料無料　限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格1冊 680円（税込734円） → 年間購読12冊 7,480円（税込8,078円）

12冊 8,160円のところ ▶680円おトク！

年間購読特典

岳人オリジナルマグカップをプレゼント！

「岳人」1月号

【特集】富士山

【好評連載】夢枕 獏「『神々の山嶺』創作ノート」／フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」／岳人プロファイル／秘境探訪／新名山行 ほか

1月号 12/15発売

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中！

年間購読お申し込み方法

◉ウェブサイトで
http://www.gakujin.jp

◉お電話で（受付後に振込用紙をお送りします）
0120-982-682 ／ TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◉全国のモンベルストアで
http://store.montbell.jp

立ちどまらない保険。
MS&AD
三井住友海上

安心を売る仕事。

嵐の日でも　晴れの日も。
つらいときも　うれしいときも。
わたしはあなたを見守っています。

わたしがあなたに
売っているのは「安心」です。

安心できれば挑戦できます。
だからあなたは
夢に向かって
進みつづけてください。

どんなことが起きても
わたしはあなたの味方です。

MS agency
私は
三井住友海上の
代理店です。
www.ms-ins.com

JMA
守ります。美しい日本の山。

山岳保険の加入は
登山者のマナーです。

あなたの山岳保険は、大丈夫ですか？

■平成25年山岳遭難の概況
（警察庁生活安全局地域課　平成26年6月12日）

発生件数 **2,172**件（前年対比 184件増）
遭難者数 **2,713**人（前年対比 248人増）
死者・行方不明者 **320**人（前年対比 36人増）

詳しくは ➡ http://www.sangakukyousai.com

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会
事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金　10：00 ～ 17：00（土・日・祝日除く）

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL：03-5958-3396　FAX：03-5958-3397
E-mail：sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
ＵＲＬ：http://sangakukyousai.com